



# 知床科学委員会 しんぶん

## 科学委員会本体会議 NO. 1

知床世界自然遺産地  
域科学委員会

エコシカ・陸上生態系  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザー会議

ヒクマ保護管理方針  
検討会議



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

### 科学委員会って?

科学委員会は、様々な分野の専門家が集まり、知床世界自然遺産のよりよい保全管理のためのアドバイスをする組織です。科学委員会の下には、分野ごとに5つの関連会議が設置されています。

科学委員会では、各会議からの報告を受けながら、遺産全般にかかる課題について議論されます。

### 今回の会議

7月24日(日)に斜里町のゆめホール知床で今年度第1回目の会議がありました。

### 構成メンバー

- 大泰司紀之(北海道大学名誉教授(委員長))
- 石川幸男(弘前大学 教授)
- 大島慶一郎(北海道大学 教授)
- 梶 光一(東京農工大学 教授)
- 金子 正美(酪農学園大学 教授)
- 工藤 岳(北海道大学 准教授)
- 桜井 泰憲(北海道大学 教授)
- 敷田 麻実(北海道大学 教授)
- 鳥澤 雅(道総研 中央水産試験場長)
- 中川 元(知床博物館 学芸員)
- 中村 太士(北海道大学 教授)
- 松田 裕之(横浜国立大学 教授)

## 必見! TOPIC

## 知床が世界自然遺産であり続けるためには?

知床が世界自然遺産に登録されてからおよそ2年半後の平成20年2月に世界遺産センターとIUCN(国際自然保護連合)による現地調査が行われました。そしてこれからの保全管理への助言として**17の宿題(勧告)**が出されました。



写真:世界遺産センターとIUCNによる視察の様子

出された宿題って???

種類	数
海域の生態系保全と利用	6
河川工作物の改良とサケ科魚類の遡上状況	3
増えすぎたエコシカと植生	4
エコツーリズム戦略策定	3
気候変動の影響を含むモニタリング計画の策定	1
計	17

例えば...

「河川工作物の改良とサケ科魚類の遡上状況」の1つに



『サケがより自由に移動できるよう対策を進めることと、サケの遡上個体数を増やすこと』

などが挙げられています。

これらの宿題を解決していくための取り組み方などを平成24年の第36回世界遺産委員会で報告することになっています。知床が世界の自然遺産であり続けるためには、その価値を保ち続けることが必要なのです。

## 今回話し合ったこと

- ①各ワーキンググループ等の検討状況
- ②長期モニタリング計画の策定
- ③平成22年度知床世界自然遺産地域年次報告書(案)
- ④世界遺産委員会への勧告対応状況の報告
- ⑤地域に向けた取組

## 注目!

知床の保全管理の『今』を  
地元の皆様へご紹介しています。

科学委員会をはじめとする会議での話し合いの内容、遺産地域で進められている調査研究活動や保全管理状況などについての情報を地元両町の皆様へお知らせします。

## ニュースレター

「知床科学委員会しんぶん」として関連会議の後につくられます。7月にはエゾシカ・陸上生態系ワーキンググループのしんぶんが届いたと思います。遺産地域が抱える様々な課題や、その課題への対応についての最新情報をお伝えします。この



もうご覧になりましたか?



7月に発行された「知床科学委員会しんぶん」第1号

ニュースレターは会議の後に斜里町と羅臼町の一部へ配布されるほか、ウトロの世界遺産センターや羅臼ビジターセンターなどの施設にも置かれます。

## 勉強会

講師は、科学委員会や関連会議の先生方です。「しれとこ科学教室」として、7月25日に羅臼町で桜井先生(根室海峡のスケソ漁)と牧野先生(地球温暖化と知床の水産業)、8月17日に斜里町で石川先生(シカが知床の風景を変える)に講演して頂きました。第3回は10月15日(予定)に中村先生を講師として、河川に設置されたダムに改良が加えられた現場で周辺環境やサケ類の

## 知床白書

### 知床白書



平成22年度 知床世界自然遺産地域年次報告書  
(案)  
知床世界自然遺産地域科学委員会編  
知床世界自然遺産地域協議会編  
環境省釧路自然環境事務所  
釧路庁北海道森林管理局  
北 海 道

地元のみなさまへ情報をきちんと提供することの方法として、その年に何が起ったのかを1冊で分かるように「知床白書」が作られます。

遊上がどのように変わったのかについてお話していただきます。



8月17日の科学教室

石川先生と一緒に、シカの食圧で植生が変わったフレペの滝遊歩道を歩きました。

内容は、遺産地域の自然環境、利用状況や管理状態についての情報整理と各種取り組みなどです。平成21年度より試作されていますが、今後3年間をかけて構成を確定していくことになっています。今回の会議では平成22年度版の素案をもとに、掲載するべき事項について話し合われました。

※知床白書は「知床データセンターHP」に載っています。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



### ■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所  
〒085-8639  
北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4階  
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

委員長の大泰司です。



知床での野生生物調査は、32年前の1979年から始めました。そして2004年に科学委員になり、2006年から委員長を務めています。

科学委員や関連会議のメンバーの多くは、皆様のふるさとを舞台として研究を進めています。その成果から知床・オホーツク海の生態系の豊かさがますます分かってきました。引き続き皆様のご協力のもとに調査を進め、これからの保全管理について話し合ってくださいと思います。

委員長 大泰司 紀之



# 知床科学委員会 しんぶん

## エゾシカ・陸上生態系

### ワーキンググループ NO. 2

知床世界自然遺産地  
域科学委員会

エゾシカ・陸上生態系  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザー会議

ヒクマ保護管理方針  
検討会議



「知床で今何が起きているの!?」「どんな調査が行われているの!?」など、タイムリーな情報をお伝えします。

#### 構成メンバー

- 梶 光一 (東京農工大学教授 (座長))
- 石川 幸男 (弘前大学教授)
- 宇野 裕之 (道総研環境科学研究センター 研究主幹)
- 川路 則友 (森林総合研究所北海道支所長)
- 鈴木 正嗣 (岐阜大学教授)
- 常田 邦彦 (自然環境研究センター 研究主幹)
- 間野 勉 (道総研環境科学研究センター 研究主幹)
- 日浦 勉 (北海道大学教授)
- 松田 裕之 (横浜国立大学教授)
- 宮木 雅美 (酪農学園大学教授)

#### 今回の会議

10月29日 (土)  
斜里町公民館ゆめホールにて、第2回目の会議が行われました。

#### エゾシカ・陸上生態系 ワーキンググループって?

知床半島において、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。  
この会議で出された意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

### 必見! TOPIC

## 今冬のエゾシカ捕獲作戦、いかに!?

遺産地域内では、個体数が増加したエゾシカによる生態系への影響が懸念されています。生態系への影響を軽減するため、環境省では今冬も、関係機関と連携しエゾシカの捕獲事業を行います。

どこでやるの?

NEW 幌別-岩尾別地区

知床岬地区

ルサ-相泊地区

捕獲が行われるのはこの3ヶ所。今冬から新たに“幌別-岩尾別地区”でもエゾシカの捕獲を行います。

### こんな捕獲方法を試します。

- シャープシューティング  
餌付け場のシカの頭や首をライフル銃で狙撃する方法。シカが逃走して警戒心を高めないう、その場のシカを全滅させます。  
 シャープシューティング
  - 仕切り柵 @ 知床岬  
知床岬の台地上に設置された柵を使って、少人数でシカを追いこみ捕獲する方法。  
 知床岬の仕切り柵
  - 囲いワナ  
自動落下ゲート付き囲い柵の中に、エサでシカをおびき寄せ、捕獲する方法。  
 囲いワナの自動落下ゲート
- その他にも“くくりワナ”などなど…

効率的に捕獲できる方法を開発しているんだね!



## 今回話し合ったこと

- ① 第2期知床半島エゾシカ管理計画について
- ② 植生指標とモニタリング調査について
- ③ 今冬のエゾシカの捕獲について
- ④ 中長期的な目標について

注目!

### ① 植生指標とモニタリング調査について

遺産地域内でシカを捕獲する目的は、エゾシカによる生態系への影響を軽減することです。植生に深刻な被害が出ている地域はないか、捕獲事業を行っている地域の植生が順調に回復しているのかを、関係機関が協力しながら継続して監視（モニタリング）しています。

例えば、エゾシカの捕獲が始まって4年が経過した知床岬地区では、越冬するエゾシカの減少に伴い、草原台地上のクマイザサの植被率や高さが増加するなど、植生が徐々に回復していることが確認されています。エゾシカを捕獲する必要があるかどうかは、エゾシカの個体数ではなく、植生の状況に応じて判断する必要があります。どのような項目を物差しとして調査するかは、それぞれの環境によって異なります。会議では、この物差しとなる項目をどのように設定するか、検討を行いました。

注目!

### ② 次なる知床半島エゾシカ管理計画へ！

知床半島エゾシカ管理計画は、エゾシカを適正に管理するため、「いつ」「どこで」「誰が行うのか」を定めた計画書です。遺産地域内のエゾシカの管理は、全てこの管理計画に基づき行われます。

5年おきに内容の見直しを行うこの計画は、2012年3月末に切り替えの時期を迎えます。会議では、2012年4月からスタートする第2期エゾシカ管理計画について、内容の最終確認を行いました。今後、この計画は、住民説明会やパブリックコメント

トを通じて広く一般のみなさまの意見を頂戴し、正式に最終決定する予定です。

### エゾシカ増えた！

### どうする???

### エゾシカ管理計画

### 住民説明会

知床のエゾシカ管理の考え方「知床半島エゾシカ保護管理計画」や、この冬のエゾシカ対策について、住民の皆様にわかりやすくご説明します。

【羅臼】

日時 12月12日(月)

18時～20時

場所 羅臼町役場

1階会議室

【斜里】

日時 12月14日(水)

18時～20時

場所 知床世界遺産センター

レクチャールーム

いずれも参加費無料・予約不要です。

▲亜高山帯での植生調査の風景



会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます！



#### ■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所  
〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階  
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

委員の宇野です。



学生時代はヒグマの調査で知床に。現在、主に阿寒や胆振のフィールドで、エゾシカの生態について研究中。

エゾシカは知床の生態系の重要な一員であり、貴重な自然資源です。植生回復のためにはシカの生息数を減らすことが喫緊の課題ですが、植生の反応や生態系への影響を継続監視していくことが大変重要です。世界に誇れる知床の自然を次世代に引き継いでいく活動に、少しでも貢献できたらと思っています。

委員 宇野裕之





# 知床科学委員会 しんぶん

## 海域ワーキンググループ No.1

### 知床の自然と漁業活動を守り続けていくために

平成23年7月23日、斜里町において本年度第1回海域ワーキンググループ会合が開催され、「知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」(通称：海域管理計画)の見直しについて、関係者の間で話し合われました。

#### Q. 「海域管理計画」て何？

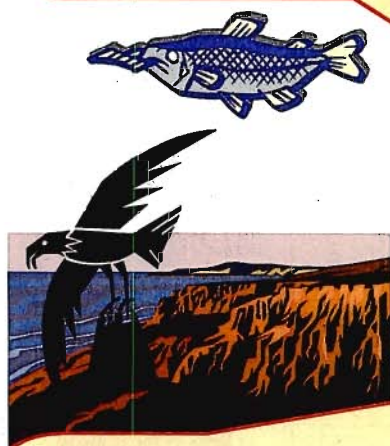
知床は、季節的に流水が訪れる北半球の海域の中で最も南にあることから生み出される豊かな海洋の自然と、それに結びついて陸上の自然が活気づく顕著な地域ということで世界自然遺産になりました。

こうした自然の保全と古くから行われている自然を守り育てた漁業の両立を掲げたものが「海域管理計画」です。

#### Q. どうして見直すの？

自然環境の保護に関わるものばかりでなく、これまで行政が策定してきた「計画」は、一度動き出すとなかなか止まらない、変えられない、という批判が常にありました。

自然環境とそれに関わる人間活動は刻々と変わります。このことから、「今」がどうなっているのか、何が欠けているのか、ということ踏まえて見直すことが必要とされているからです。



#### Q. なにか変わりそうなの？

「海域管理計画」では、知床の海の自然を代表するサケマスやスケトウダラ、トドや海鳥の生息・生育状況、および流水や水温、プランクトンの季節変化などをモニターすることによって、知床の自然の状態を把握することに努めています。

見直しは始まったばかりですが、こうしたモニターから得られた色々な情報をもとに、専門の方々からの意見を聞きながら、モニタリング項目を加えたり、改良したりしていこうとしています。

今回の議論の中では、「地球温暖化」の海洋における兆しと思われる事も新たに捉えていこう、ということが話題となりました。



○ 海域ワーキンググループメンバー

知床の自然保護について助言する「知床世界自然遺産科学委員会」のもと遺産地域の海の保全と持続可能な利用のあり方について話し合う作業部会を構成する方々です。

私が座長です



梶山 雅秀  
北海道大学大学院  
水産科学研究院教授  
サケの生態学のこ  
となら任せてね!



鳥澤 雅  
(地独)道総研水産研究本部  
本部長  
北海道周辺の海の  
魚のことは私に聞い  
てください。



櫻井 泰志  
北海道大学大学院  
水産科学研究院教授  
海域海域計画策定  
の時は御世話にな  
りました。



大島 慶一郎  
北海道大学  
低温研教授  
海と流氷の研究を  
続けて、はや20年



松田 裕之  
横浜国立大学  
環境情報研究院 教授  
専門はリスク管理  
クマから海まで  
色々やっています。



永田 光博  
(地独)道総研  
さけます・内水面水産試験場  
場長  
水産振興とサケマス  
について色々研究  
しています。

Q. 新しい計画はいつできるの?

来年中頃ぐらいまでに原案を策定する予定です。  
まだまだ、話し合わなくてはならない内容が山積み  
されていますが、その都度、策定経過を公表すると  
ともに、原案策定にあたっては皆様の御意見も広く公募  
する予定ですので、御注目ください。



服部 寛  
東海大学  
生物理工学部教授  
プランクトンの研  
究から海洋分析を  
行っています。



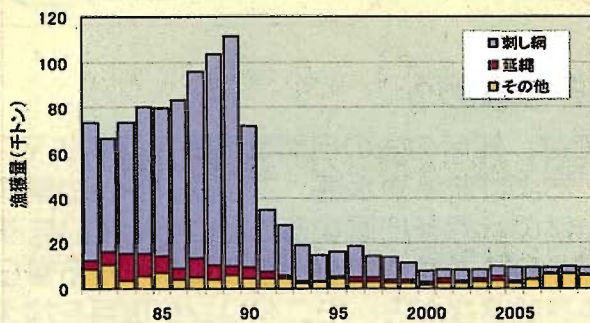
三宅 博哉  
(地独)道総研  
釧路水産試験場  
調査研究部長  
スケトウダラの調査  
研究に特に力を入  
れています。

○ 漁業者の代表の方からスケトウダラの話が出たそうだが...

知床でスケトウダラを扱っている漁業者は、小  
さな魚を獲らないやり方を自分たちで決めて漁業  
を行いながらスケトウダラ資源を守っています。  
しかしながら、スケトウダラの漁獲量は、現在、  
1990年以前のおおよそ1/10にまで減少し、  
回復していません。

こうした中、知床の海は北方四島に面し、外交  
問題の絡んだ国際情勢から地元漁業者の力だけで  
はスケトウダラ資源を守ることは難しいとの切実  
な声が上がりました。

本ワーキンググループではこれを受け、科学的  
な立場から、他国と共有  
する海洋の  
保全のあり  
方について  
日本の努力  
をアピール  
していきま  
す。



スケトウダラの漁獲の動向(根室海峡)  
出典: 水産庁「平成22年度 我が国周辺水域の漁業資源評価 ダイジェスト版」



牧野 光琢  
水産総合研究センター  
漁業管理グループ長  
漁業と資源管理の  
関わりなど社会経  
済を担います。



山村 織生  
水産総合研究センター  
生態系研究室長  
トドの生態と漁業  
被害について調  
査しています。



小林 万里  
東京農業大学  
水産資源管理学研究室  
准教授  
紅一点、アザラシの  
研究をしています。  
どうぞよろしく。

【問い合わせ先】

北海道環境生活部環境局自然環境課  
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 Tel 011-231-4111(代) 内線 24-357  
\*発行日 平成23年12月





# 知床科学委員会 しんぶん

## 河川工作物 アドバイザー会議 No. 1

知床世界自然遺産地  
域科学委員会

エコシカ・陸上生態系  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

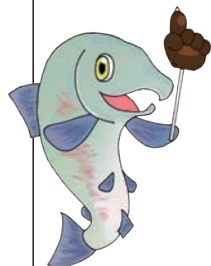
適正利用・エコツーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザー会議

ヒグマ保護管理方針  
検討会議

### 河川工作物 アドバイザー会議って？

知床はサケの遡上に代表される海と森のつながりが評価されて、世界自然遺産に登録されました。一方で、土砂災害を防ぐためにダムが作られてきましたが、これらはサケが遡上する障害にもなっています。河川工作物アドバイザー会議では、災害から生活を守りながらサケも遡上できるように、防災やサケの専門家が行政機関に対して、ダムの改良工事やサケの遡上調査について助言をしています。



▲ 改良後のダムを遡上するカラフトマス (斜里町ルシャ川 越野陽介撮影)

#### 今回の 会議

6月23日に羅臼川（羅臼町）とイワウベツ川（斜里町）で現地検討会を行い、24日に斜里町産業会館で漁業関係者の方も交えて意見交換会を開きました。

#### 構成 メンバー

中村 太士	【座長】	(北海道大学 教授)
帰山 雅秀		(北海道大学 教授)
小宮山英重		(野生鮭研究所 所長)
妹尾 優二		(流域生態研究所 所長)
丸谷 知己		(北海道大学 教授)

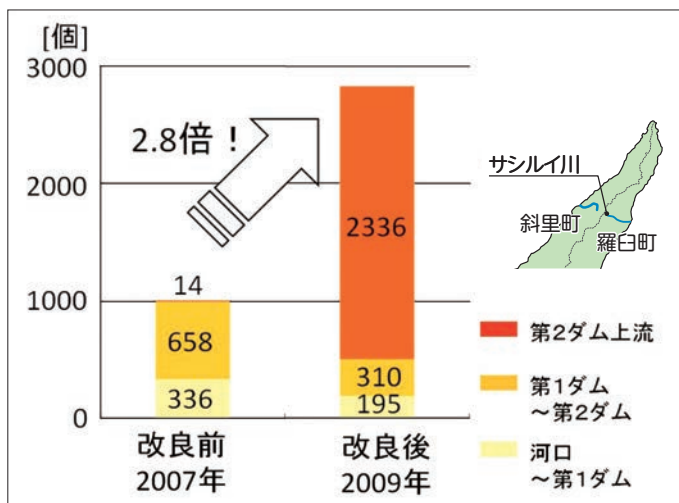
### 必見！ TOPIC

## サケは遡上しやすくなったの？

改良前に比べて、たくさんのサケがダムの上流まで遡上し、産卵床を作るようになりました。産卵床というのは、サケが川底を掘って卵を産み、埋め戻した場所のことです。羅臼町のサシルイ川では、4年前にサケのがぼりやすいように魚道の改良を行いました。改良後に行った調査からは、これまでダムの手前で産卵していたサケが上流で産卵するようになり、産卵床の数も増えたことがわかっています。



▲ シロザケの産卵床 (羅臼町サシルイ川 2007年12月)



今回  
話し合った  
こと

- 羅臼川（羅臼町）における砂防ダムの改良工事について
- イワウベツ川（斜里町）における治山ダム改良の効果について
- サケに関する長期モニタリングについて



## 今年度のダム改良工事について

世界遺産の区域内を流れる5河川で、13基のダムを改良することを目標にしましたが、順次改良が進み、残すところあと1基となりました。

今年度は羅臼川のビジターセンター前にある砂防ダムでスリット（切り込み）を入れる工事を進めています。

砂防ダムのスリット化工事（羅臼町羅臼川 2011年7月）▶



## サケも大事、生活も大事

今回の現地検討会では、ダムの上流に堆積している土砂をどのように処理していくのかという意見がでました。ダムにスリットを入れた後に、堆積していた土砂をそのままにしておくと、海が濁ることも心配されます。しかしながら、漁業関係の方々にも検討していただいた結果、サケの産卵環境には上流から小さな砂利が流れてくることが必要であり、堆積している土砂は濁りの少ない粗いものであることから、自然に任せて流すことにしました。



▲ 現地検討会の様子（斜里町赤イ川）



## 10月15日に第3回しれとこ科学教室が開かれます！

河川と森林の関わりについて長年研究・実践してきた北海道大学農学部の中村太士教授が、「海と森のつながりを取り戻せ！」と題して、斜里町イワウベツ川の現地でダム改良の方法やその効果についてお話しします。斜里町のイワウベツ川では、5年前から計6基のダムの改良工事が行われ、昨年の秋にすべての工事が終わりました。今年9月に行った調査では、改良を行ったダムの上流までサケが遡上している様子が確認されています。みなさまのご参加をお待ちしています。

カラフトマスの遡上状況  
（斜里町イワウベツ川 2011年9月）▶



### ■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 企画調整部 保全調整課  
〒064-8537  
札幌市中央区宮の森3条7丁目70番  
ダイヤルイン：011-622-5231  
FAX：011-622-5194

■ 発行：林野庁北海道森林管理局  
■ 制作：株式会社エコニクス  
■ 発行日：2011年10月8日



- 日時：10月15日（土） 13:00～16:00
- 集合場所：岩尾別ユースホステル（斜里町字岩尾別）
- 参加費：無料

\* 事前申し込みが必要です。詳しい点は、

**知床財団 (0152-24-2114)**

まで、お問い合わせください。





# 知床科学委員会 しんぶん

## 河川工作物 アドバイザー会議 No.2

知床世界自然遺産地  
域科学委員会

エコシカ・陸上生態系  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザー会議

ヒグマ保護管理方針  
検討会議

### 河川工作物 アドバイザー会議って？

知床はサケ・マスの遡上に代表される海と陸のつながりが評価されて、世界自然遺産に登録されました。

その一方で、土砂災害を防ぐために造られてきたダムが遡上の障害にもなっています。

そこで、「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケやマスも遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、ダムの改良工事や遡上調査について助言をしています。

### 今回の会議

2012年1月27日に今年度第3回目の会議が、札幌市内の北農健保会館で開催されました。

### 構成メンバー

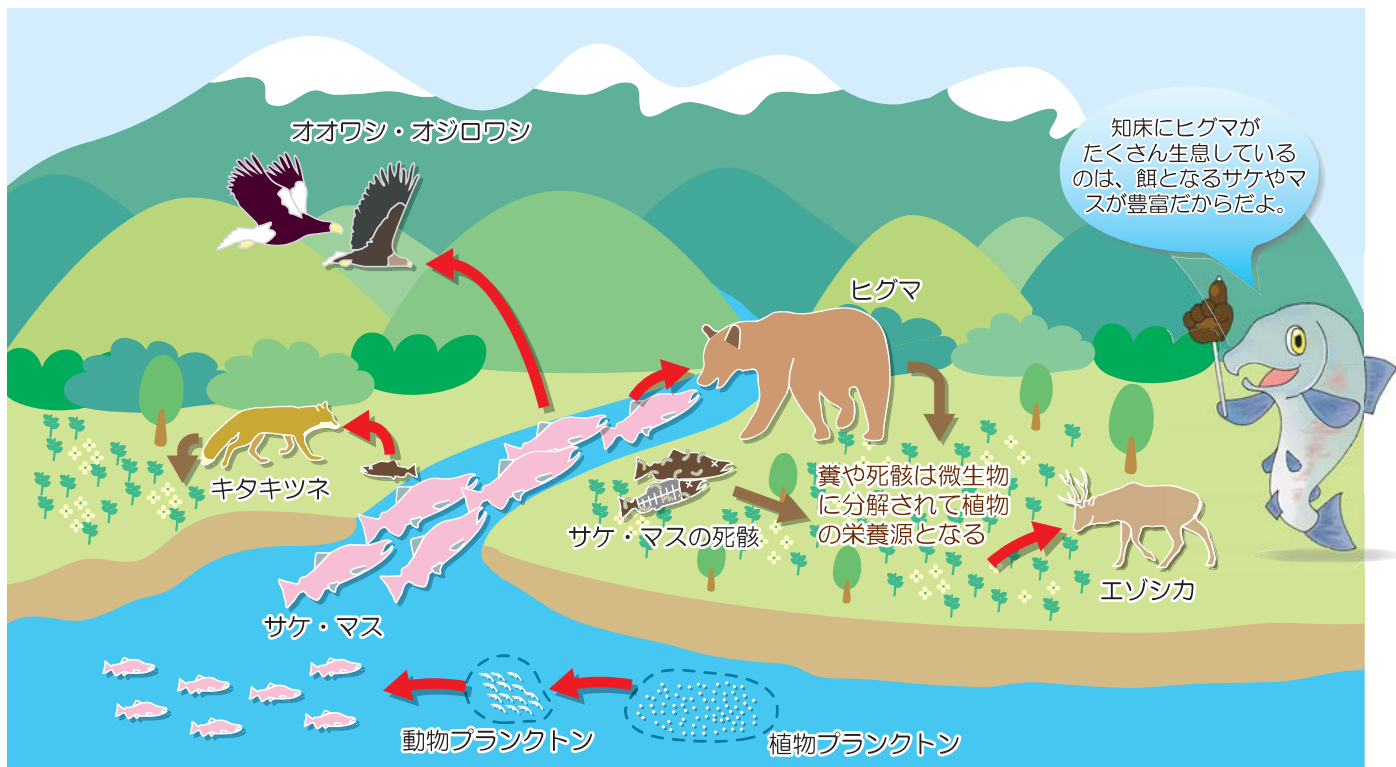
中村 太士【座長】	(北海道大学)	教授
帰山 雅秀	(北海道大学)	教授
小宮山英重	(野生鮭研究所)	所長
妹尾 優二	(流域生態研究所)	所長
丸谷 知己	(北海道大学)	教授
河口 洋一*	(徳島大学)	准教授
谷口 義則*	(名城大学)	准教授

※オブザーバーとして特別に参加して頂きました。

必見!  
TOPIC

## 海と陸のつながりって何？

川に戻ってきたサケやマスはヒグマやワシのエサとなり、川岸に打ち上げられた死骸は土に還ります。このようにサケの仲間は、知床の海の豊かな栄養を陸に運ぶことで海と陸をつなぐ役割を担っています。



▲ サケ・マスによる海と陸のつながり

これまで、ダムの改良効果を検証するためにサケ・マスの遡上調査を行ってきましたが、この調査は改良から3年後に終了することになっています。これからは、いつまでも知床の川にサケやマスが遡上できるよう定期的に川の健康診断をする「長期モニタリング」を実施していきます。

今回  
話し合った  
こと

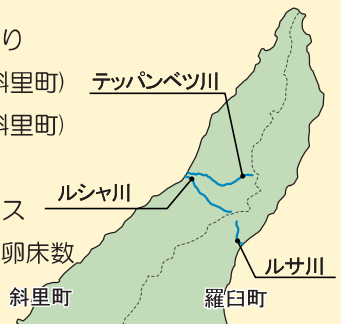
- サケやマスに関する長期モニタリングについて
- チエンベツ川とイワウベツ川における遡上調査の結果について
- 今後の会議のあり方について

注目!

## 「長期モニタリング」では何をするの？

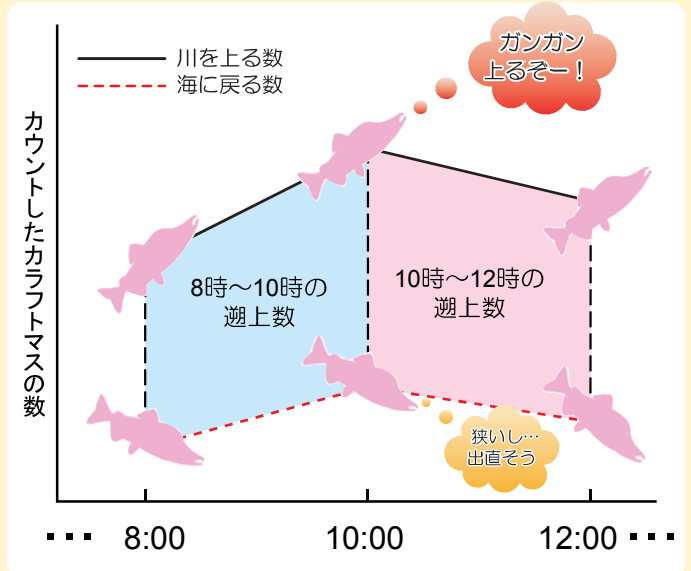
長期モニタリングでは、サケやマスの数が減ってないか、どのくらいの栄養が海から陸に運ばれているのか、ダムの影響は抑えられているかといったことを評価するために、遡上数と産卵床数を調べます。

- 調査期間：2012年より
- 調査場所：ルシャ川(斜里町) テッパンベツ川(斜里町)  
ルサ川(羅臼町)
- 対象魚種：カラフトマス
- 調査項目：遡上数、産卵床数



遡上数は、川に上ってくるカラフトマスと海に戻るカラフトマスを河口で数えることで調べます。

今回の会議では調査方法について話し合いました。長く続けていく取り組みなので、まず試験的に実施して、さらに調査方法を検討する予定です。



▲ 日間遡上数の推定例  
川が混んでくると海に戻るカラフトマスもあります。川を上る数と海に戻る数の差(色塗り部分)が遡上数になります。

注目!

## 今年度の遡上調査について

前回のニュースレターでは、斜里町のイワウベツ川で改良を行ったダムの上流までカラフトマスが遡上していることを速報でお知らせしました。

実は、改良工事を行ったイワウベツ川支流の赤イ川は酸性が強く水質がよくありません。そのため、赤イ川のさらに支流である、水の澄んだ白イ川まで遡上できるようになることを目標に工事を進めてきました。

今回の調査結果によると、サケやマスは年々上流まで遡上できるようになり、カラフトマスについては白イ川まで遡上して産卵していることが確認されました。



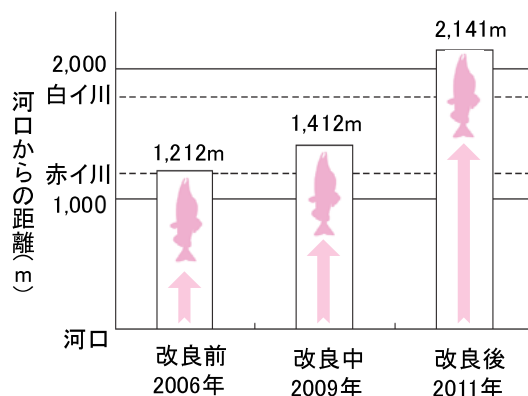
▲ 赤イ川(手前)と白イ川(奥)の合流点(斜里町イワウベツ川)

### ■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 企画調整部 保全調整課  
〒064 - 8537  
札幌市中央区宮の森3条7丁目70番  
ダイヤルイン：011-622-5231  
FAX：011-622-5194



- 発行：林野庁北海道森林管理局
- 制作：株式会社エコニクス
- 発行日：2012年3月9日



◀ ダム改良による赤イ川でのカラフトマスの遡上限界の変化(2011年のデータは知床財団提供)。





# 知床科学委員会 しんぶん

## ヒグマ保護管理方針 検討会議 NO. 1

知床世界自然遺産地  
域科学委員会

エコシカ・陸上生態系  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザー会議

ヒグマ保護管理方針  
検討会議



「知床で今何が起きているの!?」「どんな調査が行われているの!?」など、タイムリーな情報をお伝えします。

### 構成メンバー

- 松田裕之 (横浜国立大学 教授 (座長))
- 梶 光一 (東京農工大学 教授)
- 愛甲哲也 (北海道大学 准教授)
- 小宮山英重 (野生鮭研究所 所長)
- 敷田麻実 (北海道大学 教授)
- 庄子 康 (北海道大学 准教授)
- 間野 勉 (道総研 環境科学研究センター 研究主幹)

### 今回の会議

8月4日 (木)  
斜里町公民館ゆめホール知床で今年度第1回目の会議がありました。

### ヒグマ保護管理方針 検討会議って？

知床半島で、どうすれば人とヒグマがうまく共存できるのか議論するための会議です。

この会議は、ヒグマが出没したときの対応方法などを定めたヒグマ保護管理方針を作成することを目的としています。

※ヒグマ管理方針  
ヒグマとうまく付き合っていくためのルールブックのようなもの

## 必見! TOPIC

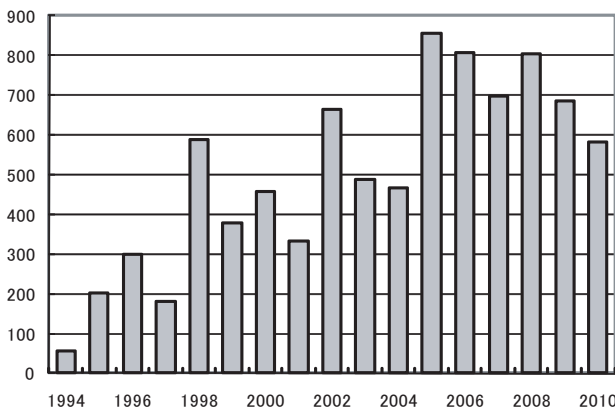
### ヒグマの出没が増えてるの？

20年前と比較すれば、増加していると言えます。

昨年、斜里町では500件、羅臼町でも100件を超えるヒグマの目撃情報が寄せられました。いずれも、一市町村の数字としては突出して多い数字です。

??? 顔

やっぱり増えてるの？



図：斜里町におけるヒグマの目撃数



ウトロの海岸に出没したヒグマの親子

90年代以降、目撃数は増減を繰り返しながら増加、近年は高止まりの状況です。

昨년이特に多かったというわけではないんだね。



人や農作物に被害を与えるヒグマですが、知床の生態系にとって重要な存在であることも確かです。近年は観光資源としても注目を集めています。ヒグマとどのようにうまく付き合っていくか、知床の大きな課題です。

## 今回話し合ったこと

- ①管理方針を決定するまでの予定
- ②住民への説明会について
- ③ヒグマに関する意識調査アンケートについて
- ④将来ヒグマをどのように管理していくのか、中長期的な方針について

注目!

地域の方が合意できる  
管理方針を目指して

これまでこの会議では、1年間をかけて管理方針を検討してきました。人とヒグマがうまく共存していくため、どのような方針が必要なのかという視点で、現在行われているヒグマ管理活動をもとに、この管理方針をまとめました。

次の段階として、地域の皆さまにこの管理方針を説明し、意見を伺う予定です。また、地域の方の意向を調査するため、アンケートを実施する予定です。

注目!

将来ヒグマをどのように

管理していくのか

管理方針は計画期間を5年としており、5年毎に見直しを行うことになっています。しかし、将来にわたって人とヒグマがうまく付き合っていくためには、ヒグマをどのように扱うのか、もつと未来を見据えた中長期的なビジョンが必要です。たとえば、現在よりヒグマに厳しい姿勢で臨むのか、よりやさしい姿勢で臨むのか。ヒグマの管理にかけるコストやマンパワーはどのくらいが適当なのか。電気柵などの予防対策をどのように進めていくのか、など様々なことが考えられます。

10年後、20年後、知床の人やヒグマを取り巻く環境は現在と大きく変わっているはずですが、ヒグマによる被害を最小化しながら、知床半島のヒグマを存続させていくためには、どのようなビジョンを持てばよいのでしょうか。

今回の会議では、この中長期的なビジョンについて話し合いを行いました。会議では、ヒグマ対策に使うコストやマンパワーなどをどう振り分け、それによって将来どうなるかをまとめて「将来シナリオ」について検討を行いました。

人とヒグマがうまく暮らすにはどうすればいいのか、一緒に考えましょう!

↓ウトロの市街地を囲む電気柵



電気柵はヒグマの侵入防止に有効です。しっかり電気が流れているか、日々のメンテナンスが欠かせません。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!

### ■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所  
〒085-8639  
北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階  
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

座長の松田です。



横浜国立大学教授。  
京都大学大学院理学研究科修了（理学博士）。  
専門は数理生態学、環境リスク学。

世界遺産地域のヒグマの行動圏内にある標津町にも参加いただき、現在行っている管理方針の考え方を明確にする形で管理方針案を作りました。同時に、クマの慣れが進んでいることから、この方針の問題点も整理し、複数の将来シナリオをまとめました。5年後の改定に備え、関係者の議論を深めていただければ幸いです。

座長 松田 裕之